

心中地獄谷

(五卷)

原作及脚色者 帝キネ音屋映畫
監督者 伊藤大輔氏
撮影者 若山治氏
河上勇喜氏

主要役割

兄 亮一 根津新氏
弟 慶二 五味國男氏
母 お政 岸邊富枝嬢
藝妓 榮 久世小夜子嬢
松永 高堂國曲氏

〔略筋〕戀に暮れ戀に明くるか、道頓堀の賑ひ近く大阪南地のほざり、の家の家へ新しく東京から移り住んだ藝妓、榮は忽ち賣れ妓となつた。彼女は思ひがけなく主家の息亮一に切ない戀を打ち明けられてやがて夢の様な戀仲となつた。彼女はまた心染まの客松永から常に云ひ寄られて居たが、亮一に誠立つる彼女の心は變らなかつた。彼女が一夜松永の爲に酔ひつづされ正体を失つた時、これも彼女を秘かに慕つて其家に来て居た亮一の弟慶二は無殘にも彼女を犯した。我れに返つて始めて悲しい出来事を知つた彼女は今は誰方なく松永の請ひを容れた。其後嘗て彼等が戀を語つた箕面の山に、榮と亮一は相遭つた。女は男の疑ひを悲しんで地獄谷に身を投じ、男も己が爲に憐れ死に就いた女のおさを追つたのである。

〔批評省略〕 (二月十七日 遊樂館)



「心中地獄谷」

榮……………久世小夜子嬢
亮……………根津新氏